

# 日和佐藻場再生委員会の取り組みについて

## 日和佐藻場再生委員会

日和佐藻場再生委員会 会長 豊崎 辰輝

日和佐町漁協 代表理事組合長

一般社団法人藻藍部 代表理事

1. 美波町及び日和佐地区の紹介
2. 日和佐町漁業協同組合の概要
3. 藻場の現況
4. 組織の設立
5. 活動実績
6. 活動の効果
7. 新たな連携による取組
8. 今後の方針

# 美波町の紹介

## アクセス

東京からの移動

✈️ 羽田空港 → 徳島空港  
飛行機 1 時間

🚗 徳島空港 → 美波町  
自動車 2 時間

合計約 3 時間

## 人口

5,711人

(3,042世帯)

2025年1月1日現在

## 高齢化率

49.5%





## 日和佐地区の紹介

- 大浜海岸はウミガメが産卵に訪れることで知られる、「ウミガメのまち」
- 四国霊場八十八か所霊場23番札所薬王寺があり、古い街並みがのこり、門前町にはカフェやお店をやる移住者が増加。
- 美しい海岸線と豊かな自然に恵まれ、ダイビングなどのマリナクティビティが人気。



## 日和佐町漁業協同組合の概要

- 設立年月日 昭和24年8月25日
- 組合員数 65名（令和5年12月現在）
- 水揚金額 1億6000万円 **※約7.5割はイセエビ**
- 主な漁業種類 いそ建網、採貝藻、一本釣り、もじゃこ漁、小型定置網
- 主な魚種 イセエビ、マグロ類、モジャコ、クロアワビ、アオリイカ、カツオ





# イセエビの資源保護活動

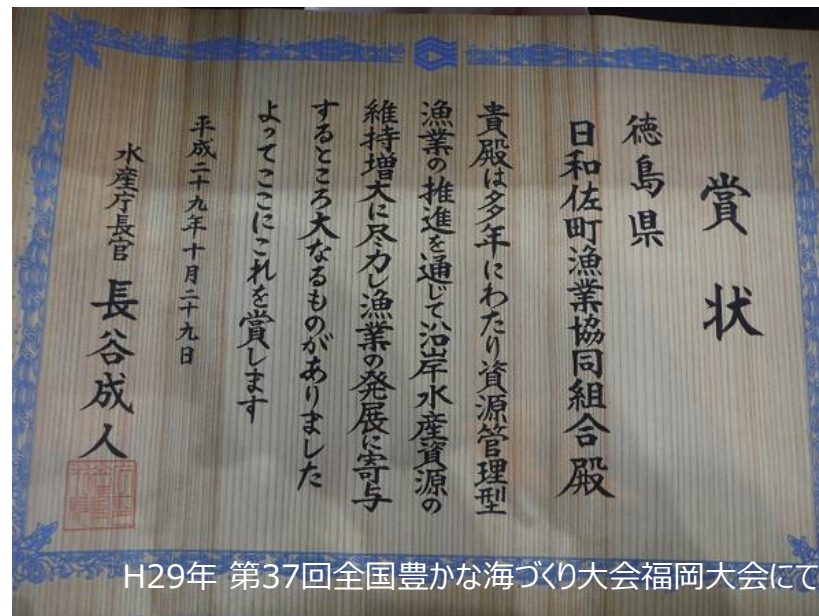
- 漁業者による自主的な操業日数や網数の制限、漁獲量・漁獲サイズの規制、小型サイズの再放流等の取組を進めている。
- 例年県下のイセエビ生産量の25～30%程度のシェアを占める最大産地となっており、資源管理の取組が成果を上げている。
- 「地先の資源は自分たちで守る」という理念のもと、ときには激論を闘わせながらも、「操業ルール」を厳格に守り続けていることが、漁業経営に好影響をもたらしている証と考えている。

## 漁場の岩場に潜むイセエビ



写真提供「海と遊ぼ屋 海達」

## 水産庁長官賞受賞

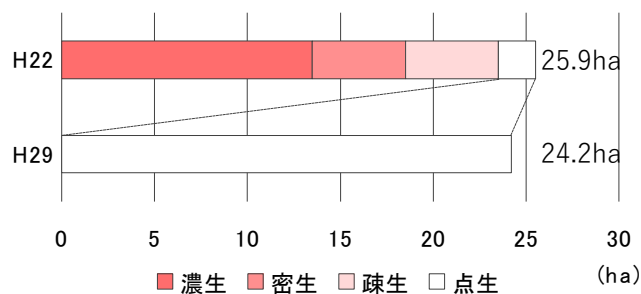


H29年 第37回全国豊かな海づくり大会福岡大会にて

# 藻場の現況

- 海水温上昇による磯焼け現象が日和佐地区海域にも広がる。要因は冬季に水温が下がらずアイゴ等の藻食魚の活動期間が長期化。海士漁のアワビ・トコブシ・サザエなどの貝類資源の減少は深刻。
- 地先海域の藻場については殆ど点生となり、カジメ・アラメ場は徳島県最南端と認識している。
- アイゴは冬季は海水温の高い紀伊水道を南下、春季は藻場やわかめ養殖場を求めて北上。地先の阿南市椿泊漁協や町内の伊座利漁協の定置網にてかかる。

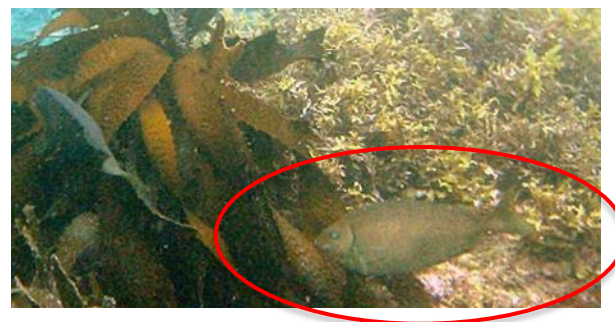
## 衰退する日和佐町漁協の藻場



H22(2010)年とH29(2017)年の日和佐漁協海域の藻場は、全てが点生となり衰退が顕著である。

徳島県水産研究課技報より

## 磯焼け主要因はアイゴ等による食圧



三井共同コン日和佐地区藻場調査より

## 磯焼けのメカニズム

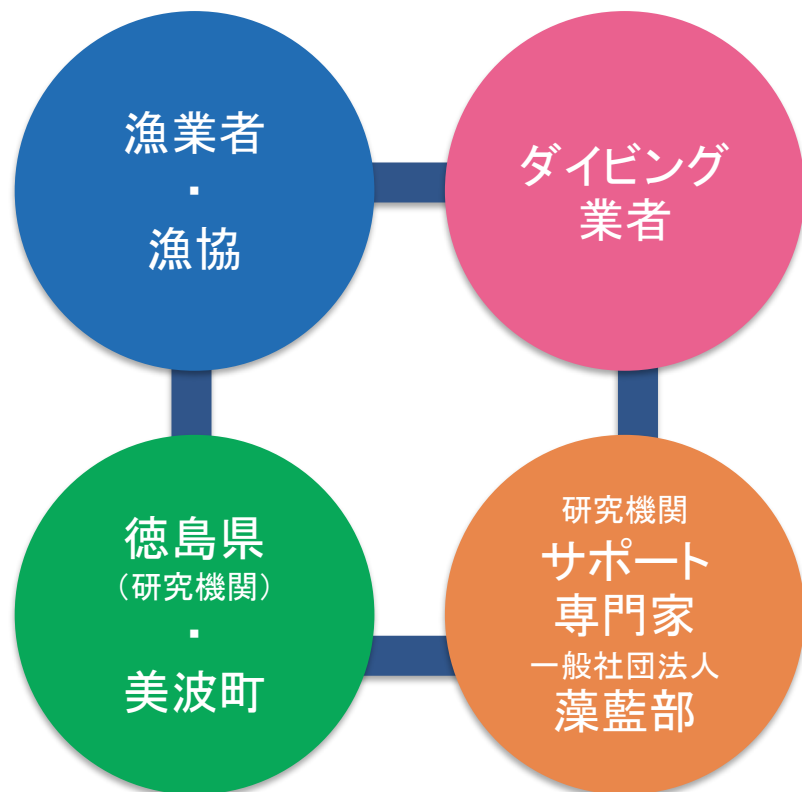


徳島県水産研究課へのヒアリングより

# 活動の設立

- 日和佐町漁協の従事者が中心となり、**平成30年度に「日和佐藻場再生委員会」を設立。**
- 海士漁を行う漁業者が中心。さらにレジャーダイビング業を営む民間業者も組織の構成員として保全活動に参加。その他、徳島県水産研究課、美波町、藻藍部、当該事業の個別サポート制度による専門家の協力を得ている。

## 日和佐藻場再生委員会の体制



## 活動協定範囲





# 組織の実績

## ①母藻の設置



- 投入時期は晩秋から初冬にかけて11月～12月上旬頃。
- アラメ・カジメの母藻は町内の他漁協地先海域の天然藻場で採取。
- スポアバック：母藻葉部と浮子を網袋に入れ、コンクリブロックに縛り船上から投入。

## ②ワカメ種苗の投入



- 県水産研究課より無償で提供されたワカメ幼体を30～40cm間隔でロープに挟み、そのロープを延縄式で船上から設置する。
- 長さ20m、水深4-5mに5本設置。
- 種を飛ばし終わる4月に回収。

## ③モニタリング活動

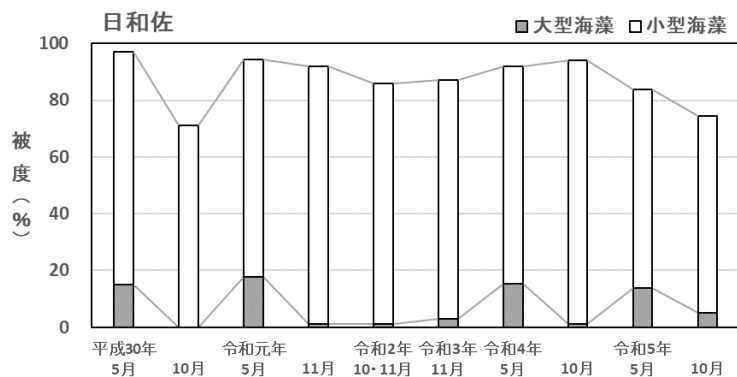


- 協定範囲内11か所に定点を設け、うち6か所を専門家と共に調査。
- モニタリング時期は繁茂する5月とホンダワラ類の幼体やアラメ・カジメ類が成熟する10月頃の年2回を原則としている。

# 活動の効果

- ウニ密度は低く維持、藻場の被度は80%以上と高く、小型海藻藻場が維持されている。
- 大型海藻の平均被度は20%未満と低く、秋にはほぼ消失しており、植食性魚類の対策が必要である。
- 子嚢斑を有するカジメの幼体の生育が確認された。早熟性カジメを利用した磯焼け対策の実施が望まれる。

## 藻場被度の推移



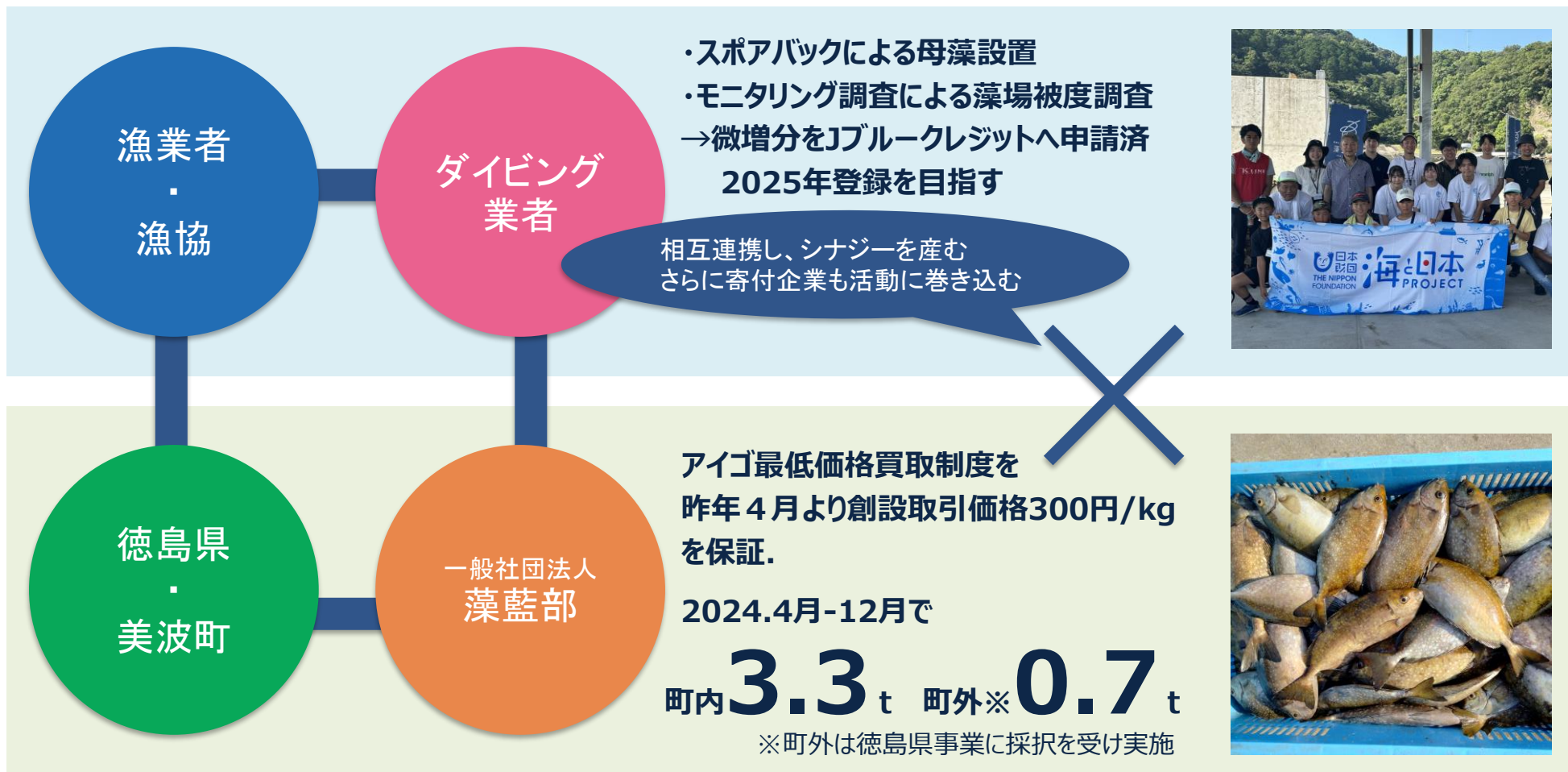
## 早熟カジメの発見





# あらたな連携による取組み 【藻藍部との連携】

- 最大の課題である食害対策に対して、美波町と藻藍部が連携してアイゴの最低価格保証制度運用、当組織で母藻設置等の藻場を増やす活動を行うなど、両者が連携して、両輪で藻場の再生を図る。





# 今後の方針

- スポアバック等の活動の継続、藻藍部との連携により強化してきた藻食魚捕獲の継続。
- 次の世代のためへの環境教育や遊漁者への啓蒙・協力依頼を継続。
- 早熟性カジメを利用・保護した磯焼け対策の実施。

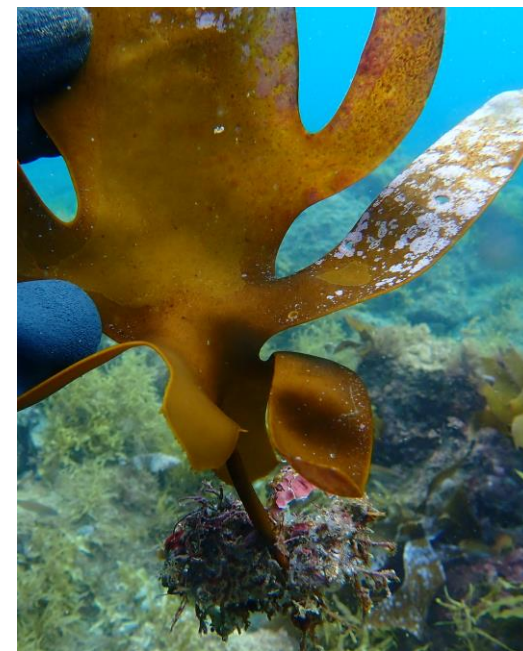
スポアバック等  
これまでの活動の継続



子どもたちへの環境教育  
遊漁者への啓蒙・協力依頼の継続



早熟性カジメの利用・保護





ご清聴いただきありがとうございました。

